

「寺子屋」手本に教育再生

安倍前首相の置き土産になつた教育再生会議が先月再開したが、深みのある議論が聞こえてこない。この際、在野の教育者の声を幅広く聞き、新規まき直ししてはどうだろうか。

例えば、10年前から福岡市を拠点に「寺子屋教育」に取り組む山口秀範さん(59)のような人もいる。元ゼネコン社員で、米国、英国、ナイジェリア

に駐在、30か国以上を駆け回ってきた。15年ぶりに本社に戻ったとき、

「世界一つまらなそうな顔をしている」日本の子どもたちにショックを受けた。

「どんな貧しい国でも子どもたちは生き生きとしていた。これからの日本の子どもは、世界と伍してやっいていけるのか」。そんな危機感から、幹部社員の道をなげうって「教育再生」に身を投じたという。

ユニークなのは、読み書き算盤そろばんとともに礼儀やしつ

け、公を重んじる心などを子どもたちに植え付けた、江戸時代の寺子屋教育をお手本としたことだ。

ミニFM局での偉人伝朗読、童謡唱歌の紹介、祝日のいわれの解説などでスタートし、3年前に株式会社「寺子屋モデル」を設立。幼稚園、学校、企業に講師を派遣して、偉人伝の語り



聞かせや古典の暗唱、家訓づくりなどを指導している。

「偉人伝なんて古いよ」と笑われたこともあるが、山口さんは気にしない。「子どもたちは初めは、テレビのウルトラマンの話と同じだと思って聞いています。それが自分たちの祖先のことだとわかってくると、がぜん、目が輝き出す。偉人の母のテーマだと母親の表情が変わってきます。なぜでしょうか」

こうした熱い人の教育論が面白くないはずがない。